

ERTHE ROUSAI HOSPITAL KANGOHU NEWS  
**Nurse Letter**

2012 **9**



**人間対人間の看護** トラベルビー

古い本ですが、人間が人間を援助することの本質的な意味を、看護の領域で丹念に究明した、看護師に人間変革を求める内容です。

トラベルビーは「看護とは、対人関係のプロセスであり、看護に本当に必要なものは、その人があるがまま尊重すること。決して看護師は患者をコントロールしたり評価してはいけません」と教えてくれます。私たち看護者は患者の心の動きをじっくりと観察し状況を見定め、患者が自分の疾患と向かい合い、症状の進行に応じてその都度意志決定できるように支援していかなくてはなりません。「希望は選択に関係するので、可能であろうとなかろうと、看護師は病人にケアに関する選択をさせる。病人の人間は自分の好みを選んだり、述べたりできるし、そうでなければならない」と考えます。日々のかかわりの中で、看護観や理念といった深い部分で大切な、看護師の人としてのあり方が常に問われています。



～がん患者が主体的に医療・看護を受けるために～

**三浦 彩**

院内の緩和ケア認定看護教育課程修了者の三浦彩さんは、緩和ケア研修を終了した医師（宮内副院長・味生先生・原田先生）が患者様へ説明する際に同席し、**患者様が病状や化学療法の説明などを十分に理解し、納得した上で治療方針が選択できるように支援・カウンセリングを行っています。**

がん患者が、外来受診の際に先生の説明が必要な場合や、不安を表出している場合、また外来で告知され入院してきた時にカウンセリングが必要と判断した場合は、ぜひ北6病棟三浦彩さんまで**声をかけてください**。該当師長を通じて当病棟師長が勤務調整して、日程決定後カウンセリングに参加してくれます。

院内では、外来2件、病棟10件のカウンセリングを実施しています。カウンセリング後のフォローも確実で、手術終了後の患者訪問や化学療法後の患者訪問もしています。がん患者が増えてきている中、病室訪問を通じて相談する機会が増えることは心丈夫だと思います。がん患者の心のケアが今まで以上にできるように、三浦彩さんと共に取り組んでいきましょう。



カウンセリングの様子

**「看取りのケア」研修会に参加して**

北5病棟 藤田寿美代

神戸研修センターで、「看取りのケア」を受講してきました。講師の角田直枝先生は、「看取りのケアは、生前のケアの延長線として、家族が良かったと思えることを目指す」ことが大切だと言われています。エンゼルケアは、亡くなった人・家族の双方に、価値観や希望、習慣、宗教など、個人を表すものであり、その人の尊厳を保つケアです。特に、ご遺体は、時間とともに変化するので、看護師ができることは変化することを少なくすること、退院後も家族が対処できるようにすることです。そのため、家族の意向を確認して、**家族にエンゼルケアに参加してもらえるよう働きかけることも重要**です。

最近のエンゼルケアの実施方法を紹介したいと思います。エンゼルケアには、3つのステップがあります。

**ステップ1は、「保清：汚れの除去」**。眼はティッシュ・綿棒で汚れを取り除きます。口腔は、歯ブラシ・綿棒で汚れを落とし、必要時含漱液や食酢を用いて清拭すると汚れが落ちやすいそうです。「保清：マッサージ」については、頭髪は、洗髪後らせんを描くようにマッサージする。顔は、蒸しタオルでよく蒸らした後、頬部は耳側から鼻に向け（長い臥床期間に、顔の筋肉は外に向け落ちてきている状態のため）、眼は円を描くとともに軽く引き出すイメージで清拭する。頭部は下顎も蒸した後、顔中心に向けてマッサージする。

**ステップ2「顔の造作【そうさく】を整える（肌を整える）」**は、クレンジング・マッサージクリームなど油分の多いものを使用し、顔の外側から内に向けマッサージする。乾燥対策として保湿は大切で、保湿をきちんとしておけば、乾燥肌でもメイクがきれいに整います。男性の髭剃りは、ご遺体が乾燥しているため、電気髭剃り機を垂直に1か所ずつ当てて剃るときれいに剃れます。口腔は、口腔内に指を入れ、外へ押し出すようにマッサージし、陥没の高さを綿で補正して顔の造作を行います。

**ステップ3「メイク」**は、油分の多い下地を選択し、ご存命時に近いメイクを加えます。できれば、家族とともに実施することが望ましいということです。患者が亡くなり、制約された時間の中で、いかに**その人らしいエンゼルケア**ができるか、ケアする側の課題があると思います。エンゼルケアの方法も色々な考え方や実施方法がありますが、今回の研修で、実際に実演を交えて講義を受けることができ、今後の実践に活かしていけると実感しました。

**がん治療最新ニュース -ガン治療最新ニュースHPより-**

手術が困難ながんを、副作用が少なく効果的に治療できる「重粒子線がん治療装置」の機能を高めた新装置の開発が始まった。重粒子線がん治療は効果もあり、副作用が少ないことが優位点だったが治療費は約300万円と高額で、治療費の負担ができる経済性が問われていた。新型の装置では、個々の患者の治療時間を半分に以下に短縮できる。結果、個々の患者の負担軽減となるだけでなく、施設全体で治療が可能な患者数が増やせるといわれている。稼働率が大幅に向上することで、個々の治療費を大幅に下げられる可能性が出てくる。重粒子線がん治療が、庶民にも身近な治療法として普及する日が近づいてきたかもしれない。

新型の重粒子線治療設備は、約30億円の費用で3～4年後の完成を予定している。

